

## 漁業担い手対策に関する意見交換会が開催されました

平成 25 年 8 月 29 日、午後 1 時半から森漁業協同組合会議室で「漁業担い手対策に関する意見交換会」が道（水産経営課）主催で開催されました。主催者挨拶後、水産経営課、漁業研修所および北海道漁業就業支援協議会の担い手対策に関する事業説明が行われ、その後出席者による意見交換が行われました。

### 意見交換の概要

森漁業協同組合では、最近 10 年間に毎年 14 名程度の組合員が廃業しており、そのため組合の生産量が減少し、組合として危機感を抱

いているとのことです。そのため、森町と森漁協はこの地域には担い手対策が必要と考え、



森漁港

漁業就業支援のための地域協議会を平成 25 年 8 月 20 日に発足させました。

森漁協管内では、5 年くらい前から長期実地研修事業に興味を持つ人がおり、今年度条件が整ったことから指導を希望する漁業者が 2 名の研修生を受け入れました（当協議会事業）。

森漁協（森地区と砂原地区）の森地区では、ホタテガイ養殖業で後継者のいない漁家に新規の人を入れる取り組みを行っています。具体的には 1 年で組合員にさせること、また漁船漁業から養殖業への転換を促進させるなどの取り組みを行っています。その他、後継者対策として独り身では後継者が途絶えるとの発想から、配偶者のいない人を対象に婚活活動（サンデークルージング）を行い、これまでに 7 組の夫婦が誕生しているそうです。

新規就業対策より後継者対策の方が重要との意見もありました。ホタテ養殖業は新規に入っても経費の面で独立は非常に困難。後継者対策としては資格取得や漁船取得等に支援することが有効との意見でした。



また、青年部では多くの活動をしているが、残念ながら一部の青年は活動をしない傾向にあるとのことでした。新規の人も含めて青年部の中で積極的に活動をしてもらいたいとの発言がありました。



町では町独自の担い手支援策を来年度に向けて策定中だそうです。町では農業も盛んであり、農業側との調整が必要とのことでした。